

だい き やま と し た ぶん か きょうせいかい ぎ だい かいかい ぎ ろく ようやく
第3期大和市多文化共生会議 第13回会議録(要約)

にち じ ねん がつ にち ど
日時: 2014年5月31日(土)14:00～16:00

ば しょ やま と し やくしよぶんちようしや かいかい ぎ しつ
場所: 大和市役所分庁舎2階会議室

しゅっせき い いん いし ま いとうひろ こ いとうもとみ いなふく おかざき
出席: 委員(石間フロルデリサ、伊藤裕子、伊藤素美、稲福スーザン、岡崎チャーメイ
ン、菊池健一、宮嶋耕治)／ファシリテーター 清水睦美／大和市国際・男女
きょうどうさんかく か ふなこしえい いち おりかき み ほ こ はら だ かずのり こうえきざいだんほうじんやま と し こく
共同参画課(船越英一、折笠美穂子、原田和徳)／公益財団法人大和市国
さい か きょうかい た なかひろ こ こにし え り こ いしかわかずとも いじょう めい
際化協会(田中弘子、小西永里子、石川和友) 以上14名

けっせき い いん あらい まさのり こばやし やま だ ちよん あ けいしりやうやく
欠席: 委員(新井政則、小林ホルヘ、ファン チィ フォン、山田静娥)(敬称略)

がつ にちほうさいくんれん ほうこく
1 5月18日防災訓練の報告

じ む きょく ほうさいくんれん ほうこく ご で い けん い か とお
事務局から防災訓練について報告した。その後出た意見は以下の通り。

い いん ほうさいくんれん まつ も めい
○委員(フィリピン): 防災訓練にはお祭りみたいなイメージを持っていたが、180名くらい
さん か しや くんれん ほんかくてき くんれん とく くんれん
の参加者が5つの訓練をローテーションする本格的な訓練だった。特に AED の訓練で、
こえ かた おそ じ ち かい かた おし
声のかけ方などを教わることでよかった。自治会の方もやさしく教えてくれた。

い いん わたし さん か おも とく くんれん
○委員(フィリピン): 私も参加してよかったと思っている。特に AED の訓練がよかった。
AED があっても使い方が分からなければいけない。地震のときだけでなく、いろいろな
つか かた わ じ しん
場面で応用できる訓練だったと思う。チャンスだと思ったので、チェーンソー訓練など
ば めん おうよう くんれん おも おも くんれん
積極的に参加した。私はこの地区に住んでいるわけではないが、自治会の人たちが
せっきよくてき さん か わたし ち く す じ ち かい ひと
温かく接してくれた。こうした外国人が参加できる訓練ができるとよい。

い いん はじ つか かた
○委員(フィリピン): スタンドパイプは初めてだったが、使い方がわかってよかった。もし、
いっかいおな くんれん ぜんいんさん か
もう一回同じような訓練があったら、全員参加したほうがいい。

ぜんかいかい ぎ ふ かえ
2 前回会議の振り返り

じ む きょく がつ しゅくはくくんれん さん か ぜんかいかい ぎ はな あ
事務局から8月の宿泊訓練への参加がむずかしくなったこと、前回会議で話し合ったこ
とについて報告し、以下の通り意見が出た。

じ む きょく がつ にち にち ち いきぼうさいくんれん さん か がつ にち
○事務局: 8月9日、10日の地域防災訓練への参加はむずかしくなってきた。5月17日、
じ ち かい あつ さん か くんれん さん か だ しん がいこくじん ふく がい ぶしや
自治会の集まりに参加し、この訓練への参加を打診したが、外国人を含めた外部者
さん か りようしや じ ち かい しゅくはくくんれん はじ
の参加は了承していただけなかった。その理由として、自治会での宿泊訓練は初めて
このころ こんかい がいこくじん う い がいこくじん にほん こ
の試みなので、今回は外国人の受け入れができないこと、また、外国人は日本語が
じ ぶん たいおう あ がいこくじん さん か さんせい い けん
できないので自分たちが対応できないことを挙げた。外国人の参加に賛成する意見は
なかつた。ただし、同じ自治会に住む外国人が参加することに対しては、断る理由は
おな じ ち かい す がいこくじん さん か たい ことわ りゆう

ないという意見^{いけん}はあった。

○委員^{い いん}(フィリピン): 5月^{がつ}18日^{にち}の防災訓練^{ぼうさいくんれん}のときに、自治会^{じ ち かい}の人が「今日の防災訓練^{きょう ぼうさいくんれん}に外国人^{がいこくじん}が来るんだってね」という話^{はなし}をしたので、「あ、それ私^{わたし}です」と言ったら、びっくりしていた。外国人^{がいこくじん}のイメージと違^{ちが}ったようで、驚^{おどろ}いていた。

○委員^{い いん}(日本^{に ほん}): 日本人^{に ほんじん}の中には外国人^{がいこくじん}と聞^きいただけでお手^て上げ、という人^{ひと}もいる。

○大和市^{やまと し}: ほかに宿泊訓練^{しゆくはくくんれん}を実施^{じっし}する予定^{よてい}の自治会^{じ ち かい}はあるか。

○事務局^{じ む きょく}: 危機管理課^{き き かん り か}に確認^{かくにん}したが、今^{いま}のところほかに予定^{よてい}している自治会^{じ ち かい}はない。

○ファシリ^{しゆくはくくんれん}: 宿泊訓練^{しゆくはくくんれん}ができなくなった、という状況^{じょうきよう}に対して、国際化協会^{こくさい か きょうかい}としては今後^{こんご}どうしていくのか。

○事務局^{じ む きょく}: 8月^{がつ}の宿泊訓練^{しゆくはくくんれん}への参加^{さんか}は別^{べつ}として、もう一度^{いちど}、自治会^{じ ち かい}の方^{かた}に対して災害^{さいがい}のとき^{とき}の外国人支援^{がいこくじん し えん}について話^{はなし}を試^しみる。

○大和市^{やまと し}: 外国人^{がいこくじん}というだけで過剰^{かじょう}反応^{はんのう}する点^{てん}があるのだとすると、子どもやお年^こ寄り^{とし}、障がい者^{しょうがいしや}など「災害時要援護者^{さいがいじようえんごしや}」というカテゴリー^{がいこくじん}があつて、外国人^{がいこくじん}はそのうちのひとつであるという視点^{してん}から話^{はなし}を試^しみるのもいいかもしれない。

○委員^{い いん}(日本^{に ほん}): 宿泊訓練^{しゆくはくくんれん}でなくても、防災訓練^{ぼうさいくんれん}を行っている自治会^{じ ち かい}はあるので、そのうち^{ひと}の一つに外国人^{がいこくじん}を含めて参加^{ふくさんか}していけばいいのではないか。

○大和市^{やまと し}: 訓練後^{くんれんご}に外国人^{がいこくじん}の受け止め方^{う と かた}が変わったかもしれないので、もう一度^{いちど}聞いてみた^きらどうか。

○事務局^{じ む きょく}: 自治会^{じ ち かい}との話し合^{はな あ}いに外国人委員^{がいこくじん い いん}が直接^{ちよくせつ}参加^{さんか}してもいいかもしれない。

○ファシリ^{がいこくじん}: だが、外国人委員^{がいこくじん い いん}が話し合^{はな あ}いの場^ばに出ていくことは疑問^{ぎもん}がある。いくら日本語^{に ほんご}のできる外国人^{がいこくじん}であっても、外国人参加^{がいこくじんさんか}の是非^{ぜ ひ}について直接^{ちよくせつ}の話し合^{はな あ}いに出ていくと、傷^{きず}つくこともある。でも、それを乗り越えなければいけない。そのためにも、やはり日本^{に ほん}人^{じん}が話し合^{はな あ}いをしたり、やらなければいけないことがある。そのあとで外国人委員^{がいこくじん い いん}が出ていくのであれば話^{はなし}はまた別^{べつ}だが。

○事務局^{じ む きょく}: 次回会議^{じ ち かい}の6月^{がつ}21日^{にち}(土^ど)までに、自治会^{じ ち かい}の方^{かた}と話し合^{はな あ}ってみる。

○委員^{い いん}(フィリピン): 明日^{あす}、自治会^{じ ち かい}でバーベキューがある。私^{わたし}は自治会^{じ ち かい}のミーティングに参^{さん}加^かしていないのでわからないが、この防災訓練^{ぼうさいくんれん}の前^{まえ}に自治会^{じ ち かい}に対して個人的^{こじんてき}に働^{はたら}きかけることもできる。

○委員^{い いん}(フィリピン): 先日^{せんじつ}の防災訓練^{ぼうさいくんれん}では、自治会^{じ ち かい}の方^{かた}から積極^{せつぎよく}的に話^{はな}しかけられた。

○大和市^{やまと し}: 外国人^{がいこくじん}でも日本語^{に ほんご}で通^{つう}じ合^あえるところがあるということを、知^しってもらえるよう^{はたら}な働^{はたら}きかけが必要^{ひつよう}になってくる。

○ファシリ: やはり、こうしたことは起^おこりうるのだと思^{おも}った。この問題^{もんだい}を越^こえていかななくては

いけないという課題^{か だい}がはっきりしたので、むしろよかったのだととらえるようにしたい。

FM やまとと多言語支援センター^{た げん ご し えん}の電話番号^{でん わ ばんごう}について

○事務局^{じ む きょく}：災害時^{さいが い じ}、多言語^{た げん ご}による情報発信^{じょうほうはつしん}に関して、FM やまとに確認^{かくにん}したところ、日曜^{にちよう}夜のインターナショナルクラブ^{ばんぐみない}での番組内^{たいおう}だけ対応^{げんじよう}しているようだ。現状^{にほん}では、日本語^{にほんご}での地震対応マニュアル^{じしんたいおう}しか用意^{ようい}していないとのこと。しかし、FM やまとの担当者^{たんとうしゃ}は、もし国際化協会^{こくさい か きょうかい}からの提案^{ていあん}があれば、多言語^{た げん ご}の発信^{はつしん}に関して、FM と協会^{きょうかい}とで協定^{きょうてい}を結ぶ^{むす}なりして取り組んでいきたいとの話^{はなし}があった。

○大和市^{やまと}：災害ボランティア^{さいが い}がFM からの情報発信^{じょうほうはつしん}の際^{さい}に活動^{かつどう}できるといい。

○ファシリ^{はなし}：この話^{はなし}は、今回の会議^{こんかい}で話し合うものでもなく、今後の課題^{こんご か だい}として残るもの^{のこ}だと思う。例えば、この会議^{かいぎ}の最終報告^{さいしゅうほうこく}にFM やまとの取り組み^{とく}について提案^{ていあん}していくの^のはどうか。

○事務局^{じ む きょく}：今後取り組み^{こんご とく}の一つとしていきたい。また、仙台^{せんだい}の多言語支援センター^{た げん ご し えん}の電話番号^{でん わ ばんごう}についての質問^{しつもん}があったが、やはり国際交流協会^{こくさいこうりゅうきょうかい}の電話番号^{でん わ ばんごう}と同じだった。

3 防災訓練^{ぼうさいくんれん}(災害多言語支援センター^{さいが い た げん ご し えん}の設置・運営訓練^{せつち うんえいくんれん})について

事務局^{じ む きょく}から資料^{しりょう}に基づいて、説明^{せつめい}を行った。その後^{おこな}に出た意見^{ごで いけん}は以下の通り^{い か とお}。

○大和市^{やまと}：分庁舎3階^{ぶんちやうしゃ}の会議室^{かいぎしつ}を避難所^{ひなんじょ}に設定^{せってい}してはどうか。

○委員^{い いん}(日本^{にほん})：災害対策本部^{さいがいたいさくほんぶ}から送られてくる情報^{おおく}をやさしい日本語^{じようほう}にしたり、翻訳^{にほんご}したりする^{ほんやく}のか。

○ファシリ^{ほんじつ}：本日^{ほんじつ}サンプルがあるのだが、災害対策本部^{さいがいたいさくほんぶ}ができて数時間^{すうじかん}後に支援センター^{しえん}が立ち上がると想定^{そうてい}すると、立ち上がった時点^{た あ じてん}でかなりまとまった情報^{じようほう}がたまっている。そこから発信^{はつしん}する情報^{じようほう}を選んで翻訳作業^{ほんやくさぎょう}をしていく訓練^{くんれん}となる。

○大和市^{やまと}：すべてを訳す時間^{やくじかん}はないので、情報の選別^{じようほう}が最初の大事な作業^{せんべつ}になる。

○ファシリ^{そうてい}：想定^{しえん}だと、支援センター^{た あ}の立ち上がり^{さいがいはっせい}は災害発生後^ご数時間^{すうじかん}たっている状況^{じようきよう}。その間^{あいだ}にたまった情報^{じようほう}を受け取って、それを使って情報の選別^{せんべつ}をする。訓練^{くんれん}の設定^{せってい}としては、センター立ち上げの段階^{た あ だんかい}を想定^{そうてい}してやってみる。

○委員^{い いん}(フィリピン^{じようほう})：情報^{えら}を選ぶ訓練^{くんれん}だと、かなり日本人^{にほんじん}の作業^{さぎょう}になってくる。

○委員^{い いん}(日本^{にほん})：災害^{さいが い}の際^{さい}につか、想定^{そうてい}される多言語^{た げん ご}の用語集^{ようごしゅう}などはあるのか。

○大和市^{やまと}：自治体国際化協会^{じちたいこくさい か きょうかい}が、災害時^{さいが い じ}に想定^{そうてい}される翻訳サンプル集^{ほんやく しゅう}などを作成^{さくせい}している。そのほか、各自治体^{かくじちたい}でも多言語^{た げん ご}の資料^{しりょう}を作成^{さくせい}している。

○委員^{い いん}(日本^{にほん})：それを訓練当日^{くんれんとうじつ}に活用^{かつよう}できるといいのでは。事前^{じぜん}にみておけば、訓練^{くんれん}

の際によりスムーズに作業にかかれるのでは。

○委員(フィリピン): やさしい日本語だとしても、災害のときに使う言葉をそのまま翻訳できるか不安がある。

○ファンリ: 実際に災害が起きると、多言語の情報提供をするグループのほかにも巡回するグループなどいくつかの役割を手分けしていくことになる。

○委員(フィリピン): 経験したことがないので、すぐに翻訳できるかどうかわからない。フォーマットみたいなものがあればいいかもしれない。

○委員(日本): やさしい日本語から翻訳すればいいのでは。

○委員(日本): 日本人委員はやさしい日本語への翻訳作業をやることになるだろう。例えば、「亀裂」「陥没」といった言葉をかみ砕いた日本語にしてい。ほかにも日本の暮らし特有のものなど、外国人に母語で説明しても分からない場合もある。

○委員(日本): 「陥没」の例があったが、日本人にとって簡単な言葉を英語にするのだけでもむずかしい。ピントはずれの翻訳をする場合もある。

訓練を行うにあたって

○ファンリ: 「事前に読んでおく」などの準備や必要なことが増えると(ハードルが上がってしまつて)、センターに人が集まってくるようになる。ボランティアができそうな人でも「わたしはできない」「そこまではやれない」と思ってしまう。ピントはずれのこともあるだろうけれども、まずはセンターに人を集めることが重要になる。例えば、言葉を得意としない人は避難所を回ってもらうことができる。皆さんから出た意見は間違っていないと思うのだが、訓練をする上ではハードルを下げておく方がいい。事前にあれこれ準備をしておくことより、訓練をした後で「これが必要」「これをした方がよい」という振り返りができた方がいいと思う。

○委員(フィリピン): トレーニングという意味ではなく、フォーマットがあった方が早く翻訳することができる。どんな情報が出て来るのかわからないので不安になっているのかもしれないが。

○大和市: 翻訳は今回の訓練の一部になる。実際は、センターに来る人たちにそれぞれどんな仕事ができるのか、役割を割り振ることになる。訓練としては、全員が翻訳作業に取り組むことが大事。

○委員(日本): 訓練は訓練としてやることとして、これから先、フォーマットなども手がけられたらいいのではないかな。

主催者は誰か

- 委員(日本): 主催者はわれわれ多文化共生会議の委員になるのか。
- 事務局: 訓練は共催という形だが、支援センターの運営主体は国際化協会と市役所国際・男女共同参画課となる。委員の皆さんはセンターに協力する人。訓練に参加しながら、センターの運営や訓練について意見を出してもらう。
- ファシリ: きっと訓練後の振り返りのときに、先ほど話のあった翻訳の用語集やフォーマットがあったらいいね、というような話も出てくるだろう。
- 委員(日本): 8月9日(土)に訓練の振り返りを行ってはどうか。
- 事務局: いい提案なのでそのようにしたい。

6月の会議について

- 大和市: 次回の6月21日の会議はどのように進めていくのか。
- ファシリ: 本日の資料を使って説明したとしても、いろいろな質問が出るだろうから、内容的にそんなに詰め込まなくてもよいのではないかな。
- 大和市: 委員の皆さんはこれまでの12回の会議の積み重ねがあると思うので、いくつかの大事なことを初めて聞く人に対して説明することが重要だろう。また、実際に東日本大震災で多言語支援センターができたという話をしたらわかりやすいのではないかな。
- ファシリ: まずは多言語支援センターとは何か、という説明は必要になるだろう。
- 委員(日本): 何かあったら頼りになるところだ、という認識を持ってもらえればいい。
- 委員(フィリピン): 多言語支援センターができたときにボランティアとして入ってほしいので、訓練を通じて何をすればいいのかというイメージを持ってほしい。
- ファシリ: ①多言語支援センター、②多文化共生会議、③多言語支援センター設置・運営訓練の3つくらいの柱で説明すればよいのではないかな。
- 委員(日本): 加えて、誰がどういう団体の人なのかわからないので、アイスブレイクのような形の交流ができればいい。
- ファシリ: 説明が終わった後に、いくつかのグループを作って、そこに委員の皆さんも入ってフリーの質疑応答ができるようにすればよいのではないかな。全体で話し合うよりもいいと思う。
- 大和市: 訓練の説明というより、多文化共生会議と多言語支援センターの説明がメインとなるだろう。
- 委員(フィリピン): そのときに、訓練の一部を実演してみるのはいかがでしょうか。

○ファシリ:イメージを持ってもらうのであれば、京都市でやった訓練の映像を流してみてもどうか。

○委員(日本):私たちも経験がないので、とにかく参加してくれるというだけでもいいのかと思う。

○ファシリ:実際の災害が起きたら想定外のことが多い。準備ばかり強調しても、訓練に参加するハードルが高くなりほしくないだろうか。できないながらも何とかやる、という訓練の方が本番に生かせると思う。

○委員(日本):7月26日の訓練はうまくできなかったとしても、むしろ、どうしてうまくできなかったのか、理解できるようになればいいと思う。

○大和市:もしかすると、実際の災害が起きたときと同じように、訓練のときもわけがわからずに翻訳の作業まで進めないかもしれない。でも、それはそれで訓練の意味があると思う。なぜ時間内でできなかったのか、話し合いをすることが第一歩だと思う。

○委員(フィリピン):オリエンテーションでは本番の準備をするのではなく、ネットワークをつくるために仲良くなるように顔合わせをすることに意味がある。

○大和市:次の会議は、7月の訓練の内容というより、多言語支援センターではこんなことをするものです、という簡単な話でいいと思う。

○委員(日本):訓練の参加者が、①災害のときに頼りになるところだ、②自分に時間があればボランティアとして協力してもいい、という2点を感じてくれれば成功だと考えていいのではないかな。

4 スケジュールについて

今後の予定

回	日時	内容
第14回	6月21日(土)	事前の打ち合わせ会議
第15回	7月26日(土)	災害多言語支援センター設置・運営訓練
第16回	8月9日(土)	訓練の振り返り
第17回	8月23日(土)	大和市総合防災訓練@深見小学校
第18回	10月18日(土)	会議
第19回	11月15日(土)	会議
第20回	12月20日(土)	会議